万松寺 はくび通信
第2052号

日本画壇の風雲児の新たな挑戦 万松寺不動堂八大童子

中村正義作 「萬松寺不動堂八大童子」 1960年

万松寺の不動堂には、「日本画壇の風雲児」と呼ばれた中村正義氏が初の障壁画として挑戦した八大童子の襖絵があります。この作品までの中村氏の作品は、どちらかというと静かな印象を受けます。しかしこの作品は、魂の叫びのような激しい印象です。

幼少期から病に悩まされながらも、日本画の世界で頭角を現した中村氏が風雲児と呼ばれる作風へと変遷する時期のこの作品には、不動明王の誓願に通じるものがあるように思われます。

不動八大童子

神仏には、誓願が叶うまで、どこまでも付き従う「眷属（けんぞく）」と呼ばれる存在がいます。薬師如来の十二神将、不動明王の八大童子、神社の狐や龍などが眷属としてよく知られています。

不動八大童子は、不動明王の「衆生の無明・煩悩を打ち破り、幸せを授ける」という誓願を叶えるために仕える童子で、仏の智慧である四智と四波羅密（しはらみつ）菩薩の役割をそれぞれが司ります。

中でも、代表的な童子は、「衆生への慈悲」を表す矜羯羅童子（こんがらどうじ）と「煩悩への怒り」を表す制多迦童子（せいたかどうじ）です。不動明王を中心に向かって右側に矜羯羅童子、左側に制多迦童子が揃うと「不動三尊像」と呼ばれます。

不動八大童子については、またの機会にはくび通信「仏教の豆知識」でもう少しお話をしたいと思います。

八大童子に触れる機会

万松寺不動堂には、正面に前立不動明王三尊像、南側の襖には、中村氏の描いた八大童子がご参拝の皆さまを見護っています。また、毎月28日に行われる「身代不動明王縁日護摩」で唱える「仏説聖不動経」というお経の中でも、八大童子の名前を耳にすることができます。

悩んだり岐路にさしかかったときには、仏の智慧に触れてみてはいかがでしょうか？

中村正義

1924年―1977年
愛知県生まれの日本画家。
戦後の日本画壇において日本画の伝統にとらわれない作品を数々発表し「日本画壇の風雲児」と呼ばれた。最期まで信念を貫き、創造を求め続け52歳の若さで逝去。

春期 不動明王大祭

5月28日（日）
10時から15時

信長の窮地を救った霊験あらたかな「身代不動明王」が身代わりとなり、護ってくださいます。

◆ご希望の願目を祈祷いたします。
・厄難消除・無病息災
・病気平癒・身体健全
・家内安全・交通安全 など

◆大般若 一万円
（御守 身代わり餅）

◆祈祷 五千円
（木札 身代わり餅）

ご予約は総合受処 電話 WEB にて承ります

住職の小噺

新しい家族との出会い

惜春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は過ぎ行く春を惜しみながら、庭に咲く、目に鮮やかな薔薇の新芽を楽しんでいます。

今回の小噺は、「家族」が私に教えてくれることについてお話します。

■旅立ちのその後

2021年のはくび通信44号のこのコーナーで、19年連れ添った愛猫「ホワ」についてお話をさせていただきました。私にとってホワは家族でしたので、ホワとの別れはどこかしら自分の一部が欠けたような感じでしばらく過ごしていました。

動物霊廟「Passo」で葬儀、火葬、納骨、法要を営まれる方も、初めは大きな悲しみを抱えていらっしゃいます。それぞれの儀式を営む時間は、家族との思い出を振り返ったり、家族が遺してくれた想いを汲むために、今後自分にできることは何かということに向き合うための大切な時間なのでしょう。

私自身、ホワの一周忌を終えたころ、欠けたように感じていた自分の一部が、いつしかホワと過ごした日々の思い出であふれていることに気づき、ホワからもらった無垢で無償の愛を伝えたいと思うようになりました。

■新しい出会い

気持ちが変わると不思議なことに、アメリカンショートヘアの子猫と、ダックスフンドの子犬を家族として迎えるという縁に巡り合いました。新しく迎えた家族の子猫はメアリー、子犬はエルモと名付け、賑やかながらも癒しの毎日を過ごしています。

先日、メアリーとエルモがじゃれあって遊んでいるとき、二人を見守るホワを近くに感じました。ホワのことですから、私にしてくれたのと同じように、新しい家族にも無垢で無償の愛を注いでくれているのだと思います。二人にもその想いが伝わるといいなと思います。

■彼らから教わること

彼らは言葉を話しませんが、とても感情豊かです。彼らの態度は彼らの本心からくるもので、損得勘定や複雑な嘘がないので、すれ違いで起こるようなわだかまりがないように思います。

一方で人間はどうでしょうか？マズローの欲求5段階説にもあるように人間には段階に応じた欲があり、それが満たされないと不満に思い負の感情が生まれてしまうものです。そんな時に私は、彼ら家族を思い出し行動するように心がけています。

切ないほどに従順でシンプルな深い愛で接してくれる彼らの行動は、自然と相手の関わり方を変える力を持っています。相手が変わると自分の負の感情も幾分か穏やかになっていることに気が付くのです。

私にはたくさんの師がいます。それは、お釈迦様であり、彼らであり、ご縁を結んだすべての人です。いつかホワに再会したときに話すことが尽きないよう、それぞれの師に感謝して日々精進したいものです。

合掌

万松寺住職
大藤　元裕

これからの行事

5/28（日）春期 不動明王大祭

身代不動尊のご真前にて災難消除、病気平癒、無病息災、身体健全、交通安全、家内安全の祈祷を行います。

8/22（火）旧暦七夕

万松寺では、旧暦にのっとって七夕を行います。願い事を書いた短冊を奉納していただき、七夕祈祷会では皆様の願い事が叶うようにお焚き上げを行います。

お盆行事

7/9（日）8/10（木）11（金祝）12（土）お盆合同法要

8/12（土）15（火）迎え火 送り火

「迎え火」では、12日の夕刻に松明を焚き、ご先祖様の精霊をお迎えします。「送り火」では、15日の夕刻に松明を焚いてお盆の間一緒に過ごしたご先祖様の精霊をお送りします。

8/24（木）施食会

ご先祖様への施食法要と、全ての精霊に対する山門施食法要を営みます。

行事・祈祷・供養のお問合せ・お申込みは祈祷受処または
052-262-0735
にて承ります。
（年中無休）

僧侶が教える 仏教の豆知識

【禅語「不退転」】

4月は統一地方選挙がありましたので、各地で街頭演説が行われていました。その中で「不退転の覚悟で挑みます。」というフレーズを耳にされた方もいらっしゃるかと思います。

ふたいてん
不退転

仏道修行を怠らずに励み、しりぞかないこと。
一般に、何事にも屈せず固く信じて心をまげないこと。

出典　岩波国語辞典

右にあるようにこの言葉は、仏教に由来する禅語の一つです。言葉の構成をみると「退転」という言葉に否定の接頭語「不」が付いています。つまり「退転：修行を怠って悪いほうにともどりする」ことを打ち消す言葉となります。

悟りの境地に到達するためには、屈強な精神と努力で功徳を積み上げ、前に進む日々を過ごす必要があります。怠けたりあともどりをしていては、いつまでたっても悟りの境地には辿りつけないのです。

ゆえにこの言葉には重みがあり、本来口先だけで軽々しく発するべきではなく、心の底からあともどりできない気持ちで頑張るという強い気持ちがある時に発するべき言葉なのです。

■今を生きる

もし今日という日があなたの人生最後の日だとしたら、あなたは限られた時間を精一杯生きようとするでしょう。そこに遺恨や怠惰の影はなく、前進しているはずです。しかし、人の命の限りは不平等で、いつ絶たれるかは誰にもわかりません。例えば大切な誰かと喧嘩をして、謝るのを明日に延ばしたとき、あなたや相手に明日が来ないということもありえます。そのとき喧嘩をしたことや謝るのを先延ばしにしたことを後悔しても時間を戻すことはできないのです。

ではどうしたらよいのでしょうか？それは「今」という時間を大切にすることです。

あなたが不退転の決意で今を大切にし、目標に向かって、時に深く想像し、ひとつひとつ丁寧に歩むとき、あなたは自然と他をも思いやることができるようになることでしょう。そしてそのようにして生きた今の積み重ねのひとつひとつがあなたの素敵な年輪となり、本当の意味で充実した人生となるのです。

■柔と剛

一般に不退転という言葉で使われる意味の「何事にも屈せず固く信じて心を曲げない」ですが、これは「どんなことがあっても初めに決めたことすべてを何かに囚われて不屈に守る」ということではありません。

物事には本当に変えてはいけない根本とそれをとりまく枝葉のものがあります。根本というものは、その事を成し遂げるにあたっての普遍性のある源、始まりなのです。根本を曲げてしまってはその物事は本来の物事とは別の物事となってしまいます。反対にその周りに取りまくものや行いが環境や時代によって変化を求められる場合は、ニーズにあわせて柔軟に変化しなければ、いわゆる「時代遅れ」に陥り、事を成し遂げることができなくなりかねません。

不退転という言葉を掲げるときには、まずは自らの置かれた状況をしっかりと捉え、根本となる「心」を信じ変えないことです。

そのうえで、どんなに優れた人でも自分の世界に引きこもっていては閃きも気づきもありませんから、周りの意見をよく聞き、より多くの知恵を集め、物事を達成するための道筋を柔軟に選択できるようにしておくとよいでしょう。

今回記事を書くにあたり、日々不退転の気持ちをもって、研鑽を続けるということを改めて心に刻みました。

また、万松寺としても「仏の智慧を伝えること」を根本に、行事や講座を行ったり、時代に合わせた供養のカタチをご提案できるような仕組みとして、様々なタイプの納骨堂やわかりやすい葬儀をご用意したりしています。

より多くの方に仏の智慧に触れていただく機会を設けるために、お気づきのことなどございましたら、皆さまのお知恵をお借りできれば幸いに思います。

この「はくび通信」ご持参にて1回無料で仏教講座にご参加いただけます

大人の寺子屋

～万松寺住職との気楽なお茶会～

講師　万松寺住職　大藤　元裕

開催日　■5月7日（日）　■6月4日（日）

時間　10時半～12時（受付　10時～）

参加費　300円（お抹茶・お菓子付き）

万松寺の仏教講座

坐禅会　■毎週日曜日　9時～10時

写経会　■毎月第1土曜日　16時～17時半

写仏会　■毎月第2・4土曜日　16時～17時半

仏教勉強会　■毎月第3土曜日　16時～17時半

参加費　500円

詳しくは万松寺のWEBサイトもしくはお電話にてご確認下さい

お申し込み・お問合わせ
WEB　万松寺 学び舎　検索
電話　052-262-0735

万松寺日記

涅槃会

■令和5年2月15日（水）
2月15日はお釈迦様が亡くなられた日です。
お釈迦様のご命日であるこの日、「涅槃会（ねはんえ）」という特別な法要を営みました。
須弥壇に涅槃図という軸をかけ、お釈迦さま最後の説法である「仏垂般涅槃略説教誡経」を読経し、お釈迦様の遺徳をしのびました。

初午会

■令和5年3月1日（水）
白雪稲荷様のご真前にて、商売繁盛、金運上昇などのご祈祷を行ないました。

信秀忌

■令和5年3月3日（金）
織田信長公の父で、万松寺を建立した織田信秀公の命日に、追悼法要を営みました。
今年は、織田信長公が桶狭間の戦いへの出陣前に清洲城で舞った天下の舞「幸若舞」を幸若舞保存会の皆様が奉納しました。
また、「有楽流」という茶道の創始者で織田信長公の弟、織田長益公（別名：有楽斎）の直径の家系である17代目の宗家 織田裕美子先生による「献茶」が行われました。

災害物故者被災動物追悼法要と炊き出し訓練

■令和5年3月5日（日）
各種災害による物故者追悼供養と被災された方の復興、世界平和祈祷を行いました。また2月6日に発生した、トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする地震の救援募金活動を行いました。
併せて、万松寺職員による災害緊急時の炊き出し訓練を行いました。

春彼岸合同法要

■令和5年3月21日（火祝）
22日（水）
春彼岸合同法要では、万松寺納骨堂契約者様のご先祖様を懇ろに供養させていただきました。

降誕会・花まつり

■令和5年4月8日（土）
お釈迦様の誕生を祝し、報恩感謝の法要を営みました。
また境内では、花御堂（はなみどう）の誕生仏に甘茶を灌ぐ花まつりを行いました。

開山忌

■令和5年4月22日（土）
織田信秀公の叔父で、万松寺初代住職 大雲永瑞大和尚の命日に、追悼法要を営みました。

春姫忌

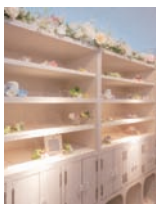
■令和5年4月23日（日）
初代尾張藩主徳川義直公正室春姫様の命日に、菩提寺である当寺で、追悼法要を営みました。

大切な家族が　安らかに眠れる場所
万松寺動物霊廟 Passo（パッソ）

ありがとうの
気持ちを込めて

お葬式から法要まで、全てお任せ下さい。

葬儀・火葬
ご家族の気持ちに寄り添い、心を込めてお別れの時をお手伝いいたします。
葬儀・火葬 26,400円～



納骨・法要
個別納骨壇と合同墓がございます。霊廟内での法要も承っております。
納骨 13,200 円～

ご見学随時承っております。
お問合せ・ご相談もお気軽にどうぞ。
フリーダイヤル　イコーナ　クヨーニ
0120-157-942
■受付時間■
9:30～18:00
所在地〒460-0011 名古屋市中区大須 3 丁目 30-40 万松寺ビル北館 9F